



ウイトラレポート 2010年2月号 「インドの移動体通信事情」

はじめに

インドはここ数年携帯電話の加入者が急増しており、中国に次いで世界第2位のケータイ大国である。しかしながらインドという国は文化、習慣などが日本と大きく異なっており、日本人にとってはかなり遠い存在である。また、インドのケータイは極めて低価格で使い方も日本とはかなり異なるというイメージがある。

一方で、インドのIT技術の進歩は目覚ましく、日本でもソフトウェア開発をアウトソースする会社も増えている。またドコモはインドの携帯電話会社 Tata に出資して、事業を始めておりこの事業も順調に伸びてきている。

今回は、インドの経済を概観するとともに、携帯電話の現状を分析し、将来性を占う。日本の会社はインドを市場としてみるよりもソフト開発のアウトソース先としてみる面のほうが強いと思うが、今回はその側面には触れずに、市場としてのインドを考察する。